

**授業概要**

発達心理学には、人間の発達のメカニズムを明らかにする科学的側面と、生涯にわたる生活の質を高めるための実践的側面がある。本講義では、科学としての発達心理学に関する基礎的な理論の理解を深めると共に、人間の発達を促す保育・教育実践のあり方についても議論する。将来、教師や養育者として人の発達を支える立場になることを見据えて、理論的基盤に基づいた判断・行動ができるようになることを目指す。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス：発達心理学とはどのような学問か
第 2 回	遺伝と環境
第 3 回	乳幼児期の発達①：感覚・運動の発達
第 4 回	乳幼児期の発達②：愛着の発達
第 5 回	乳幼児期の発達③：自己と感情の発達
第 6 回	乳幼児期の発達④：認知の発達
第 7 回	乳幼児期の発達⑤：言語の発達
第 8 回	乳幼児期の発達⑥：社会性・道徳性の発達
第 9 回	乳幼児期の発達⑦：遊び・仲間関係
第 10 回	学童期の発達
第 11 回	青年期の発達
第 12 回	成人期～老年期の発達
第 13 回	発達の支援①：学習と動機づけ
第 14 回	発達の支援②：発達障害
第 15 回	発達の支援③：心と行動の問題
第 16 回	筆記試験

※受講生の興味関心や進度に応じて、一部変更する場合があります。

**到達目標**

- ・発達心理学の基礎的な知識や概念について自分の言葉で説明できる。
- ・発達心理学の知見をどのように実践に生かせるのかについて、具体的に意見を述べることができる。
- ・保育や教育の実践場面で生じる諸問題について、発達心理学的な視点から考察することができる。

**履修上の注意**

授業中は、講師からの説明だけでなく、受講者同士での話し合いの場を設ける。  
他の受講生とも協力しながら、主体的に授業に参加することを求める。

**予習・復習**

予習：指定した教材に目を通し、疑問点やもっとよく知りたい点を考えておくこと。  
復習：授業で学習した内容について、分かった点やまだよく分からない点をまとめておくこと。  
(予習や復習を通じて出てきた疑問点については、授業内でフィードバックを行う)

**評価方法**

学期末試験70%、授業内レポート20%、受講態度10%

**テキスト**

教科書は特に指定せず、毎回の授業時に適宜教材を配布する。  
参考書：『ベーシック発達心理学』 関一夫・齋藤慈子編 東京大学出版会